

Intellectual and Creative

# 季論 21

No. 10

2010年秋号 目次

## 特集 「戦後史」をどうとらえるか

33

〈シンポジウム〉 「戦後史」における時期区分をめぐつて 34

パネリスト

渡辺 治

〈政治〉

／ 暉峻衆三

〈経済〉

／ 中西新太郎

〈文化、若者〉

橋本紀子

〈シエンターと教育〉

／ 宮地正人

〈司会・日本近現代史〉

資本主義の発展段階と戦後日本経済史

石川康宏 〈経済理論〉

88

民族教育差別に見る「在日」政策

高替侑 〈ノンフィクション作家〉

109

新連載 インタビュー 〈同時代の肖像①〉

姜済淑 「知ること、からはじまる」

聞き手・旭爪あかね 〈作家〉

16

● グラビア

ワンダーランド 「靖国」

鈴木紀夫 5

解説 15

社会主義をどう探究するか——理論と現実をめぐる意見交換

聴濤弘 (国際問題)

124

沖縄の海兵隊は抑止力か

松竹伸幸 (日本外交論)

143

戦争責任と社会主義をめぐる——井上ひさし『一週間』を読む

北村隆志 (文芸評論家)

157

現代中国の「国のかたち」と「社会のかたち」

——戯れ歌から眺めると

南雲智 (中国文化論)

176

「生きる」とはどういうことか

——うつ病と文学と

和田逸夫 (文芸評論家)

187

竹橋事件の謎

——岡本柳之助の周辺を探る

橋本きよ子 (竹橋事件の会 会員)

205

エッセイ 『自筆本』 十余年

上野洋三 (国文学)

122

エッセイ 「島」のことば 大原稯子 (方言指導) 172

観測点

中東和平直接交渉とオバマ政権 (岡田則男・ジャーナリスト) 219  
沖繩2010夏から秋へ (豊見城明・ジャーナリスト) 222  
創立四十五周年を迎えた民主文学会 (田島 一・作家) 225

書評

森岡孝一著 『強欲資本主義の時代とその終焉』 (北村洋基・現代日本経済論) 220  
塩原俊彦著 『核なき世界論』 (木村英亮・ソ連史) 224  
洪盛原著 『されど』 (吉開那津子・作家) 228  
矢ヶ崎克馬著 『隠された被曝』 (沢田昭二・物理学) 232  
友寄英隆著 『変革の時代、その経済的基礎』 (西村直樹・金属労働研究所) 236  
堀尾輝久著 『人間と教育 対話集』 (池谷壽夫・教育哲学) 240

● 読者のひろば 13

● 編集後記 252